

《原 著》

心サルコイドーシスの診断における ^{18}F -FDG PET の有用性

奥村 渉*	岩崎 勉*	植田 哲也*	関 亮太郎*
宮嶋 玲人*	羽鳥 貴*	佐藤 秀樹*	外山 卓二*
鈴木 忠**	松原 國夫***	大竹 英則***	青柳 恵子***
井上登美夫***	遠藤 啓吾***	永井 良三*	

* 群馬大学医学部第二内科
** 同 保健学科
*** 同 核医学科

要旨 サルコイドーシス患者 16 例 (男性 3 例, 女性 13 例, 年齢 63 ± 12 歳) に空腹時 ^{18}F -FDG PET, ^{67}Ga シンチグラフィ, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI 心筋 SPECT を行い, 心サルコイドーシスの診断における ^{18}F -FDG PET の有用性を検討した. 心内膜心筋生検, 重症心室性不整脈, 2 度以上の房室ブロック, 左室壁運動異常などの心異常所見を合併する 10 例では, 全例 (100%) に心筋への FDG の異常高集積を認め, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECT の異常所見出現率 (80%) と有意差は認めなかったが, ^{67}Ga シンチグラフィ (50%) に比べ有意に高値であった. FDG の高集積部位は前壁から側壁にかけて多く認められたが, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI 心筋 SPECT の集積低下部位に特定の傾向は認めなかった. また, FDG の高集積部位と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI の集積低下部位は必ずしも一致せず, この所見は炎症から変性・壊死に至る心筋障害の病態を反映するものと思われた. 空腹時 ^{18}F -FDG PET はサルコイドーシスの心障害の検出に優れ, 活動性病変の存在や広がり診断する上で有用と考えられた.

(核医学 36: 341-348, 1999)